



北の隣人2019

ズドラーストヴィチェ

こんにちは！ Здравствуйте!

～四島交流事業、地域創生推進事業など～



北海道北方領土対策根室地域本部

目 次

- ◆ 北方領土の概要 1
- ◆ 四島交流受入 3
- ◆ 四島交流訪問 7
- ◆ 北方墓参 12
- ◆ 航空機を利用した特別墓参 14
- ◆ 自由訪問 15
- ◆ 北方四島における共同経済活動 19
- ◆ 北方領土視察等 20
- ◆ 地域創生推進事業 22
- ◆ 北方領土返還要求運動 25

北方領土の概要



北方領土イメージキャラクター「エリカちゃん仲間達」

はじめに

択捉(えとろふ)島、国後(くなしり)島、色丹(しこたん)島及び歯舞(はぼまい)群島は、私たち日本人が開拓し、父祖伝来の地として受け継いできたもので、歴史的にも、国際的な取り決めから見ても、いまだかつて一度も他国の領土となったことのない日本固有の領土です。

しかし、昭和20年の終戦直後にソ連軍の不法占拠により島民は島を追われ、それが現在まで続いています。日本固有の領土である北方領土の返還は日本国民の大きな願いです。

北方領土問題を解決し、一日も早い返還を実現するためには、まず日露両国民の一人ひとりが北方領土についての正しい理解と認識を深めることが大切です。

本冊子では、相互理解を深め、領土問題の解決を含む平和条約締結問題の解決に寄与することを目的とした四島交流を中心に、北方墓参、自由訪問、地域創生推進事業など、北方領土対策根室地域本部が関わった北方領土関連事業を分かりやすくまとめました。

本冊子を通し、北方領土問題を解決して平和条約を結び、日本とロシアとの間に真の相互理解に基づく安定的な関係を築くことの大切さを感じ取っていただけたら幸いです。

北方領土までの距離～わずか3.7kmのところにある島

北方領土について、遠い北の島々と思うかもしれませんが、最も近い歯舞群島の貝殻(かいがら)島までは、根室市の納沙布岬からわずか3.7kmしか離れておらず、肉眼で灯台を見ることができるほどです。国後島までは別海町の野付半島から16kmで、新潟市と佐渡島との距離の約半分です。色丹島まで73.3km、択捉島までは144.5km。北方領土とはこんなにも近くにある島々なのです。

【P1、2】 令和元年国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」等による

北方領土の自然

択捉島、国後島、色丹島及び歯舞群島の四島を合わせた面積は5,003.1 km²で、千葉県や福岡県とほぼ同じ大きさです。

気候的には黒潮と親潮の影響により、1年を通して寒暖の差が小さく、気候は根室地方と大差はありません。最も暑い8月の平均気温で16℃前後、最も寒い2月の平均気温は-6℃前後です。夏季を中心に霧が多く発生し、冬季の積雪はあまり多くはありません。

動植物では、シマフクロウ、エトピリカやクジラ、イルカ、ラッコ、アザラシ、さらにはヒグマ、クロテンなどのたくさんの野生動物が生息しています。

森林は、トドマツ、エゾマツ、カシワ、シラカバ、ナラなどで形成されています。

現在では、四島側で広範な「自然保護区」を設定していることと、人の活動する場所が限られていることもあって、比較的豊かな動植物が分布しています。

択捉島

日本で最も北側に位置する全長204kmの島で、北方四島の中で最大の島です。その面積は、3,167.8km²あり、鳥取県とほぼ同じ大きさです。火山島で温泉も多く、西単冠(にしひとかつぶ)山(1,629m)をはじめ、1,000mを超える山も少なくありません。

国後島

根室半島と知床半島との中間に位置している面積1,489.9 km²の細長い島で、沖縄本島よりも大きい島です。典型的な火山島であり、四島中最高峰の爺爺(ちゃちゃ)岳(1,772m)があります。材木岩、蠟燭岩等の奇岩があり、温泉も10数か所ありますが、利用のための施設はほとんどありません。

色丹島

根室半島のはるか東に位置している面積250.6 km²の島で、徳之島(鹿児島県奄美群島の1つ)とほぼ同じ大きさです。全体が緑で覆われ、とても美しい島として知られています。

歯舞群島

根室半島の東端、納沙布岬の沖合に点在する島で、水晶(すいしょう)島、秋勇留(あきゆり)島、勇留(ゆり)島、志発(しぼつ)島、多楽(たらく)島のほか、貝殻島や萌茂尻(もえもしり)島などの島々からなっています。これらの島々の面積は94.8 km²で、小笠原諸島(東京都)とほぼ同じです。



写真:色丹島穴澗湾の夕日(第2回北方四島交流事業 令和元年5月26日撮影)

四島交流受入

四島交流受入

北方四島交流事業は、北方領土問題の解決までの間、相互理解の増進を図り、領土問題の解決に寄与することを目的として、日本国民と北方領土に居住するロシア人との間の旅券(パスポート)・査証(ビザ)なしによる相互訪問事業です。

1991年(平成3年)4月のゴルバチョフ・ソ連大統領来日の際、ソ連側からの提案を受け、両国間での協議の結果、同年10月の日ソ外相間の往復書簡により、四島との交流の枠組みが作られました。旅券の携行や査証の取得なしで、外務大臣の発行する身分証明書などによる渡航が認められていることから、『ビザなし交流』と呼ばれています。『北方四島交流受入事業』は、四島在住ロシア人を受け入れる事業です。

令和元年度における四島交流受入実施状況

区分	実施月日	訪問先	団員数
第1回(ファミリー)	6月14日～6月18日	根室管内1市4町	68名
第2回(青少年)	7月11日～7月15日	札幌市、根室市	60名
第3回(日本語習得)	7月16日～8月15日	札幌市、根室市	19名
第4回(一般)	9月26日～9月30日	苫小牧市	44名
		計	191名

※北方四島交流北海道推進委員会主催分

第1回(ファミリー)



別海町でのせんべい焼き体験の様子です。自分たちで実際にせんべいを焼いた後、おいしくいただきました。



中標津町での日本文化体験の様子です。習字を体験し、自分たちの名前を一生懸命書きました。



標津町での住民との交流会の様子です。竹馬や竹とんぼなど日本に伝わる伝統的な遊びを体験しました。



羅臼町でのそば打ち体験の様子です。職人さんに教えてもらいながら一生懸命作りました。できあがったそばは皆さんでいただきました。

第2回（青少年）



北海道博物館の見学の様子です。北方四島の先史文化とも関わりのある北海道の歴史や自然について学習しました。



札幌市内で地元の大学生と一緒に市内を散策し、一緒に夕食や買い物を楽しみました。



石狩市にある最新の石狩湾新港発電所を見学した様子です。最新の火力発電所について説明を受けました。



石狩市で地元ソフトボールクラブの中高生とゲームをして交流しました。地元の高校生と一緒に夕食をとり、楽しい時間を過ごしました。



根室市での夕食交流会の様子です。地元の高校生と一緒に夕食をとり、楽しい時間を過ごしました。



北方四島交流センター（ニ・ホ・ロ）でのまとめの研修会の様子です。滞在中に印象深かったことや思い出に残ったことを発表し合いました。

第3回（日本語習得）



札幌での日本語研修開講式の様子です。この日から訪問団員は約1カ月間、平日は宿泊施設から研修会場まで通学して日本語を勉強し、週末は様々な日本文化に関する体験をしました。



札幌市内で浴衣の着付け体験の様子です。



根室市に戻った訪問団員は、アイロンで風呂敷にプリントを施すアートプリントを体験しました。気に入ったデザインを綺麗にプリントできました。



北方四島交流スピーチコンテストの様子です。研修の終盤にスピーチコンテストが行われ、日本語を学ぶロシア人が日本語で、ロシア語を学ぶ日本人がロシア語でスピーチを披露し、お互いの学習の成果を確認しました。



第4回（一般）



苫小牧市のトヨタ自動車工場を訪問し、最新の自動車技術などについて説明を受けました。



苫小牧市のリサイクルプラザで、紙すき体験をし、リサイクル紙を制作しました。



住民交流会では、「ゴミ問題」をテーマに意見交換を行いました。



苫小牧市内にあるロシアの宇宙ステーション「ミール」の展示館を訪問しました。



苫小牧市での住民交流会の様子です。参加者全員で日本舞踊に挑戦し、住民との交流を深めました。



根室港出港の様子です。船が見えなくなるまで手を振り、別れを惜しみました。

四島交流訪問

四島交流訪問

北方四島交流事業は、北方領土問題の解決までの間、相互理解の増進を図り、領土問題の解決に寄与することを目的として、日本国民と北方領土に居住するロシア人との間の旅券(パスポート)・査証(ビザ)なしによる相互訪問事業です。『北方四島交流訪問事業』は、日本国民が北方領土を訪問する事業です。

令和元年度における四島交流訪問実施状況

区分	実施月日	訪問先	団員数
第1回(一般)	5月10日～5月13日	国後島	65名
第2回(一般)	5月24日～5月27日	色丹島	65名
第3回(後継者)	8月23日～8月26日	国後島	44名
第4回(後継者)		色丹島	20名
第5回(教育関係者・青少年)	9月13日～9月16日	択捉島	64名
計			258名

※北方四島交流北海道推進委員会主催分

第1回(一般) 国後島訪問



今年度初めてとなる訪問団。友好の家では民族衣装を身にまとった現地のロシア人が塩とパンで歓迎してくれました。



国後島の郷土博物館を見学する様子です。博物館には国後島と色丹島の自然や動物の紹介や、アイヌ民族の家具や道具も展示されています。



古釜布(ふるかまっぷ)墓地での墓参の様子です。四島交流訪問では、住民との交流のほか、墓参も行われます。



住民交流会では、「しべつとどわら太鼓保存会」による太鼓演奏や、ロシア人島民の太鼓の体験会も行われました。

第2回（一般）色丹島訪問



根室市文化協会の訪問団員から、絵画や陶芸作品などを寄贈しました。現地島民からはとても好評でした。



水産会社ギドロストロイの水産加工場を視察しました。北方四島で最大規模の工場内には最新の加工設備が並んでいました。



色丹島の穴澗消防署の視察では、施設内の見学のほか、実際の放水の様子を見せてもらいました。



斜古丹墓地のクリル人墓地において、団員である札幌アイヌ協会副会長による「イチャルパ」(アイヌ式の供養)が行われました。



スポーツ施設「シコタンアリーナ」の見学の様子です。施設内はとてもきれいでトレーニングルームやシャワー室等も完備されていました。



レストランでの夕食交流会の様子です。みんなで食べて、踊って、大いに盛り上がりました。

第3回（後継者） 国後島訪問



ロシア語通訳によるロシア語講座の様子です。翌日の住民交流会やホームビジットに備えて、簡単なロシア語を勉強しました。



現地のロシア人講師による絵画教室では、風景画などを描いて、みんなで作品を見せ合いました。



ホームビジットの様子です。どこの家庭でも歓迎され、訪問団員達はおいしいロシア料理を食べながら、交流を深めました。



国後島にある正教会を視察しました。きれいに装飾された教会で訪問団はお祈りを捧げました。



国後島唯一の空港「メンデレーエフ空港」を見学しました。



「ローソク岩」を視察しました。浜辺にそびえ立つこの岩は、現地の方に「悪魔の指」と呼ばれています。

第4回（後継者） 色丹島訪問



色丹島に上陸した訪問団は、ウーソフ地区長を表敬訪問しました。お互いに挨拶を交わし大歓迎されました。



色丹島正教会の様子です。国後島の教会と違い、装飾の色合いなど落ち着いた雰囲気教会でした。



穴澗村展望広場を視察しました。このハート型のオブジェは絶好の記念撮影スポットです。



住民交流会では、今後取り上げるテーマについて意見を交換しました。今後は、「観光」をテーマとし、対話を重ねることが決まりました。



夕食交流会の様子です。現地の伝統的な衣装をまとい歌やダンスで交流を深めることができました。



色丹島出港の様子です。現地の方々が見送りに駆けつけてくれ、別れを惜しまました。

第5回（教育関係者・青少年） 択捉島訪問



紗那墓地での墓参の様子です。訪問団全員で線香を手向け手を合わせました。



学校訪問では紗那学校を訪問し、ロシア料理教室や考古学体験教室などを体験し、生徒との交流を深めました。



学校訪問での発表会の様子です。伝統衣装を身につけ、現地の子ども達と一緒に踊りました。



ホームビジットの様子です。現地の子ども達とはすぐに打ち解け、有意義な時間を過ごすことができました。



スポーツ交流の様子です。団員による少林寺拳法、現地の子どもたちはまだ始めて間もない柔道を披露してくれました。



ヴァンナチカ温泉の見学の様子です。実際に水着を着て温泉に入っていた団員もいました。

北方墓参

北方墓参

北方墓参は、北方領土問題とは別に、人道的観点から元島民等が旅券・査証なしの簡単な身分証明書により、先祖の眠る北方四島を訪れ、お墓参りをすることを目的として実施しているものです。

北海道の主催により、昭和39年から実施され、途中中断はありましたが、昭和61年以降は毎年実施しており、今年度の実施で通算42回目となります。これまで北方四島に52箇所ある全ての墓地で墓参を実施しています。今年度は3回の実施予定でしたが、1回目は低気圧による強風のため中止となり、2回の実施となりました。

また、出入域の手続きは国後島古釜布(ふるかまづぶ)において行われていますが、平成28年12月の日露首脳会談において人道的措置の一環として合意された追加的な出入域地点の設置について、平成29年・平成30年(それぞれ1回設置)に引き続き、今年は北方墓参第3班の際に水晶島台場岬沖に設置され手続きが行われました。

令和元年度における北方墓参実施状況

区分	実施月日	訪問先(墓地)	団員数
第1班	6月15日～6月17日	悪天候のため中止	—
第2班	7月18日～7月20日	択捉島(ウエンバフコツ、内保、ペケンリタ、オダイベケ)	51名(うち遺族33名)
第3班	7月26日～7月29日	水晶島(茂尻消、ボッキゼンベ、秋味場) 色丹島(能登呂、キリトウシ、相見崎)	49名(うち遺族33名)
		計	100名(うち遺族66名)

第2班 択捉島(ウエンバフコツ、内保、ペケンリタ、オダイベケ)



合同洋上慰霊の様子(内保(ないぼ)沖)



ペケンリタ墓地に続く坂道



閑静なアルトル浜(上陸地)



ペケンリタ墓地慰霊式にて追悼の辞を述べる石川副団長

第1班が悪天候で中止となったため、第2班が本年度最初の北方墓参となりました。

内保、ウエンバフコツ墓地については、外交当局間の調整がつかなかったため上陸ができず、両墓地合同の洋上慰霊を内保沖で実施しました。

その後、アルトル浜に上陸し、ペケンリタ墓地において慰霊式を行いました。途中、天候が急変し、強風が吹き荒れ、えとぴりか本船に戻るのも難儀しました。

次の上陸先であるフルベツ沖に移動しましたが、強風のため上陸は叶わず、オダイベケ墓地は船上での洋上慰霊となりました。

第3班 水晶島(茂尻消、ポッキゼンベ、秋味場)、色丹島(能登呂、キリウシ、相見崎)



茂尻消(もしりけし) 墓地への道中



墓標を補修する様子 (茂尻消墓地)



ポッキゼンベ墓地での墓参



秋味場(あきあじば)墓地での集合写真



発見した相見崎墓地の墓標



アカイシ浜での合同慰霊(能登呂(のとり)墓地・キリウシ墓地・相見崎(あいみさき)墓地)の様子



相見崎墓地付近からの景色

北方墓参第3班は、通常国後島古釜布沖で実施する出入域地点が、臨時的に水晶島台場岬沖に設置されて手続きが行われました。これにより渡航時間は大幅に短縮され、高齢者の方々の負担が軽減されました。

手続き終了後すぐに水晶島の茂尻消浜に上陸し、茂尻消墓地にて墓参。墓標の一部が激しく損傷していたため、団員自ら墓標を補修しました。その後、税庫前(ぜいこまえ)浜に再上陸しポッキゼンベ墓地で墓参。翌27日は秋味場浜へ再上陸し秋味場墓地で墓参し、水晶島の3つの墓地において墓参を執り行うことができました。

その後、波風が強くなったため、色丹島の穴澗方面に移動し停泊。翌28日も引き続き波が高く、色丹島の能登呂とキリウシへの上陸が困難であったため、相見崎方面に移動しアカイシ浜へ上陸。相見崎墓地は急斜面の上部にあるため、アカイシ浜にて能登呂墓地・キリウシ墓地・相見崎墓地の合同慰霊を行いました。

相見崎墓地は当初、探し当てることができませんでしたが、合同慰霊終了後に再度探索したところ、墓標を見つけ、探索した方々でお参りすることができました。

航空機を利用した特別墓参

航空機を利用した特別墓参

平成28年12月の日露首脳会談において合意された事項で、高齢化している元島民の方々の身体的負担の軽減を図るという人道的観点から、交通手段として航空機を使用して墓参を行うもので、平成29年から実施されています。

今年度は近年訪問が制限されていた3墓地において墓参を実施することができました。

令和元年度における航空機を利用した特別墓参実施状況

実施月日	訪問先(墓地)	団員数
8月10日～8月11日	国後島(泊墓地)	39名(うち遺族24名)
	択捉島(留別、ポンヤリ墓地)	28名(うち遺族14名)
計		67名(うち遺族38名)



出発式(中標津空港)



チャーター機



ポンヤリ墓地での墓参



泊(とまり)墓地での墓参



留別(るべつ)墓地での墓参

今年で3回目となる航空機墓参は8月10日に中標津空港を出発、国後島の空港において入域手続き後、国後班と択捉班の2つのグループに分かれて(択捉班は引き続き航空機で択捉島へ移動)、それぞれの墓地に向かいました。

今回の墓参では、近年訪問が制限されていた3墓地への訪問が実現し、無事墓参を行うことができました。墓参終了後、国後班は友好の家に、択捉班は紗那(しゃな)のホテルに宿泊して、翌日、無事に中標津空港に戻りました。

自由訪問

自由訪問

平成10年11月の日露首脳会談における合意に基づき、従来の四島交流及び墓参に加え、元島民及びその家族による北方四島への最大限に簡易化された自由訪問(いわゆる「ふるさと訪問」)の枠組みが設定され、平成11年から実施されています(実施主体:公益社団法人千島歯舞諸島居住者連盟)。

また、平成20年4月の日露外相会談により、それまで同行できなかった「元島民の子の配偶者、孫及び孫の配偶者、複数の医師・看護師」の同行が可能となりました。

令和元年度における自由訪問実施状況

区分	実施月日	訪問先(地名)	団員数
第1回	5月17日～5月20日	択捉島(トマカラウス、グヤ、十五夜萌)	55名
第2回	5月31日～6月3日	国後島(東沸、中ノ古丹)	39名
第3回	6月21日～6月24日	国後島(植沖、植内、ラシコマンベツ)	49名
第4回	7月12日～7月15日	色丹島(斜古丹、クリル人墓地、アナマ、稲茂尻、チボイ)	58名
第5回	8月2日～8月5日	国後島(白糠泊、礼文磯、乳呑路)	57名
第6回	8月30日～9月2日	勇留島(トコマ)、志発島(西浦泊)	61名
第7回	9月20日～9月23日	国後島(古丹消、ハッチャス、泊)	48名
		計	367名

第1回(択捉島)



洋上慰霊(豊浜沖)の様子



洋上慰霊(グヤ沖)での集合写真



交通艇から居住地跡を視察
(セイノツ沖)

今年度初めてとなる北方四島への訪問事業は、択捉島太平洋側への訪問予定でしたが、荒天により5年連続上陸が叶わず、洋上での慰霊となりました。上陸は叶いませんでしたが、比較的波やうねりが少なかったセイノツ沖では小型交通艇を下ろし、岸から50～60mの付近まで接近し、故郷の様子を間近に見ることができました。

第2回（国後島）



中ノ古丹(なかのこたん)墓地での集合写真



東沸(とうふつ)墓地で立て直した墓石



オリコノモイ 岬を視察

第2回自由訪問は、天候に恵まれ予定していた目的地2カ所に無事上陸することができました。中ノ古丹では、草をかき分け墓標を探しましたが、発見に至らず諦めて帰ろうとした矢先、偶然、8年前の訪問で樹木にくくりつけた墓標を発見し、お参りすることができました。東沸墓地では、団員が協力して倒れていた墓石を立て直しました。

第3回（国後島）



墓参(植内(うえんない)墓地)



解団式兼夕食交流会(友好の家)



居住地跡視察(植古丹(うえんこたん))

第3回自由訪問は、古釜布にある「友好の家」に宿泊し、島内を車で移動するなどして3か所の目的への訪問を果たしました。訪問2日目にラシコマンベツ墓地と植内墓地を訪問し、翌3日目には植沖(うえおき)墓地への墓参や植古丹居住地跡の視察を行いました。

第4回（色丹島）



稲茂尻（いねもしり）墓地での集合写真



墓参（アナマ墓地）



斜古丹（しゃこたん）市街地視察

第4回自由訪問は、天候に恵まれ、全ての上陸予定地を訪れることができました。13日は穴澗港から上陸した団員は、稲茂尻墓地を訪問後、マタコタン居住地跡の視察やアナマ墓地への墓参を行いました。14日は斜古丹訪問団とチボイ訪問団とに分かれ、それぞれ墓地の訪問と居住地跡の視察を行いました。

第5回（国後島）



墓参（礼文磯（れぶんいそ）墓地）



乳呑路（ちのみのみち）墓地での集合写真



「元島民と後継者の語り」の様子

8月3日に白糠泊、礼文磯へ上陸して墓参を行いました。礼文磯に上陸する際は、天候の急変により3班中2班の上陸が叶いませんでしたが、翌4日に無事上陸を果たしました。上陸後、礼文磯居住地跡などの散策を行ったほか、乳呑路墓地への墓参や周辺散策を行いました。さらに、オダイベケにも上陸し、オダイベケ周辺の散策を行うことができました。帰船後は船内食堂で今年から実施している「元島民と後継者の語り」を行い、元島民は島での当時の生活について、後継者は返還運動にける思いなどを語り、有意義な訪問となりました。

第6回（勇留島、志発島）



墓参(トコマ墓地)



西浦泊(にしうらとまり)墓地での集合写真



居住地跡視察(トコマ)

31日に勇留(ゆり)島税庫(ぜいこ)前に上陸し、トコマ墓地へ墓参後、税庫前、アサキリナイ、モトトロモイ、トロモイ、ポントロモイ、トコマの居住地跡をそれぞれ視察しました。その後、砂浜に上陸し、居住地跡を視察しました。翌日は、志発(しぼつ)島の西浦泊に上陸し、西浦泊墓地を墓参後相泊や西浦泊周辺の視察を行いました。

第7回（国後島）



ポントラルベツ慰霊後の集合写真



ハッチャス周辺視察の様子



居住地跡視察(米戸賀)

今年度最後の自由訪問は、外交当局間での調整がつかなかったため、古丹消(こたんけし)及び泊(泊市街、ウエンナイ)を訪問することができませんでしたが、ハッチャス浜で慰霊後、米戸賀及びサルカマップに戦後初上陸を果たし、居住地跡の視察を行いました。泊地域はポントラルベツに上陸し、慰霊や周辺の視察を行いました。善平古丹(ぜんぺこたん)は関係者のみで上陸し、居住地散策を行いました。

北方四島における共同経済活動 パイロット・プロジェクト【日露のゴミ処理の専門家の往来】

令和元年6月の日露首脳会談において、「観光」及び「ゴミ処理」の2件の「ビジネスモデル」について一致し、同年秋にも「観光パイロットツアー」や、日露のゴミ処理の専門家の往来などのパイロット・プロジェクトを実施することで一致しました。これを受け、8月にロシア人専門家による北海道視察、9月には日本人専門家による国後島視察が実施されました。

【ロシア人専門家による北海道視察（8月19～23日）】

- ・日本側からは、経済産業省、外務省、北海道庁等の地元自治体関係者、民間の専門家等が参加。
- ・根室市の一般廃棄物最終処分場等の関連施設を視察するとともに、北方四島でのゴミ処理に関する課題等について専門的見地から意見交換を実施。



事業者からの説明を聞くロシア人専門家

【日本人専門家による国後島視察（9月13～16日）】

- ・ゴミ処理に関する日本人専門家が国後島を訪し、関連施設の視察等を実施。
- ・日本人専門家、経済産業省、外務省、根室市ほか計8名が参加。



視察を終えた帰港後の取材の様子

北方四島における共同経済活動 パイロット・プロジェクト【観光パイロットツアー】

10月27日から11月3日までの行程で、観光パイロットツアーが実施されました。ツアーは株式会社ワールド航空サービスが催行し、観光客のほか、政府職員等の同行者を合わせて44名の規模での実施となりました。

首脳間の合意が着実に実施されたことのみならず、参加者にとって、北方領土問題への理解を深める貴重な機会となったほか、地元関係者にとっても、観光PRや隣接地域を知ってもらう機会にもなりました。

【ツアー概要】

- ・10月27日(日)～29日(火)
隣接地域根室管内1市4町各所訪問
- ・10月30日(水)～11月1日(金)
国後島・択捉島訪問
(国後島：羅臼山、日本人墓地、材木岩 など)
(択捉島：オダイバケ温泉施設等
※天候上の理由により滞在日程を1泊2日から2時間に短縮)
- ・11月2日(土)
根室港帰港
- ・11月3日(日)
中標津空港出発



納沙布岬で説明を受ける参加者(根室市)



羅臼山(国後)



日本人墓地(国後)



材木岩(国後)



オダイバケ温泉(択捉)

宮腰光寛内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策） [7月9日～11日]

宮腰光寛内閣府特命担当大臣が元島民等や地元関係者との意見交換会、北方領土関連施設の視察を行うため、根室管内を訪問しました。意見交換会では地元側から、自由訪問や墓参時における訪問箇所の増加や高齢者団員のサポートに関する要望等がありました。



根室市関係者との意見交換会



元島民等との意見交換会



交流船えとぴりか視察

左藤章内閣副大臣 [7月29日～30日]

佐藤章内閣府副大臣が就任後初めて根室管内を訪問しました。29日は、羅臼国後展望塔（羅臼町）、別海北方展望塔（別海町）を視察しました。30日は根室港を視察した後、千島会館にて元島民等との意見交換を行い、元島民等からは自由訪問の参加者枠組拡大などについての要望がありました。



意見交換会



納沙布岬視察



羅臼国後展望塔視察

鈴木直道北海道知事 [8月4日]

鈴木知事が就任後初めて根室を訪問し、地元関係者や元島民等と意見交換会を行いました。元島民等との意見交換会では、国内の北方領土問題に関する関心度の向上や返還要求運動の後継者支援について意見交換を行いました。



中標津町役場での意見交換会



二・ホ・ロでの意見交換会

北海道議会北方領土対策特別委員会道内調査 [8月28日～30日]

北海道議会北方領土対策特別委員会が道内調査のため根室管内を訪れ、北方領土関連施設等の視察や元島民及び地元関係者との意見交換会を行いました。元島民との意見交換会では、後継者育成、墓地の整備、墓参や自由訪問参加者の枠組み等について意見が交わされました。



ニ・ホ・ロでの意見交換会



羅臼国後展望塔での意見交換会



北方館視察（納沙布岬）

衛藤晟一内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策） [10月2日]

衛藤内閣府特命担当大臣が、就任後初めて根室管内を訪問し、視察及び関係団体との要望・懇談会を行いました。北方四島交流センター（ニ・ホ・ロ）で行われた関係団体との要望・懇談会で、各団体から交流事業の円滑な実施、隣接地域と北方四島との地域間交流の促進、旧漁業権保障の早期実現等の要望がありました。



意見交換会



納沙布岬視察



参議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会 [2月17日～18日]

参議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会が実情調査のため根室管内を訪れ、元島民や行政関係等との要望・懇談会を実施しました。元島民からは「この1年で政府の外交交渉が後退している」との意見が述べられるとともに、四島訪問時の負担軽減対策、後継者対策の支援等について要望がありました。

また、行政関係等との要望・懇談会では、隣接地域と北方四島との地域間交流の推進や旧漁業権保障の早期実現等についての要望がありました。



元島民との要望・懇談会



行政関係等との要望・懇談会



羅臼国後展望塔視察

地域創生推進事業 北方領土モノがたり事業(その1)

根室振興局の独自事業として、平成30年度から「北方領土モノがたり事業」を実施しています。この事業は、北方領土隣接地域として領土返還に向けた世論の機運醸成を図るため、北方領土問題に「触れる」「学ぶ」「知る」の3本を軸に、根室管内の魅力(自然・歴史・文化・食など)を活かし、観光と連動した北方領土問題の啓発活動を展開していきます。

野付通行屋・番屋跡遺跡を訪ねる 北方領土遺産ツアー



野付半島ネイチャーセンターでの
レクチャーの様子

かつて国後島に渡るための要所であった「野付通行屋跡遺跡」に触れてもらうことで、北方領土問題に対する興味や関心を高めるとともに一層の理解促進を図ることを目的に、別海町郷土資料館との共催により、4月20日(土)に実施しました。

「野付通行屋跡遺跡」は江戸時代末期の遺跡であり、文献資料と遺構が残った北海道の中でも貴重な遺跡として知られています。まずは野付半島ネイチャーセンターにて遺跡に関するレクチャーを受け、通行屋跡遺跡入り口まで車で移動。快晴の中、約2キロの道のりをオジロワシ、タンチョウなど野鳥を観察しながら遺跡に向かいました。野付通行屋跡では、墓石、土塁、建物跡、畑の畝跡を実際に見て、江戸時代のこの地の様子に思いを馳せました。



通行屋跡遺跡で墓石、土塁、畑の
畝跡などを確認しました



海水面の上昇や地盤沈下により
遺跡が浸食されてきているとのこと



散策の
様子

北方領土モノがたり事業展示会

公益社団法人北海道倶楽部と連携し、東京で開催された交流イベントにおいて、根室管内の訪問客拡大のための観光PRや北方領土問題の理解を深めるパネル展を実施しました。(令和元年10月29日)



交流イベント出展ブース

地域創生推進事業 北方領土モノがたり事業(その2)

グローバル「ねむろ」's Joint-Workshop ～ 今だからこそ、北方領土問題をしっかり学ぼう ～

新たに根室管内に配置された公務員や会社員の若手職員などを対象に、根室管内特有の課題である「北方領土問題」に対する理解や関心を持ってもらうことを目的とした北方領土に関する初任者向け研修会を開催しました。

当日は約100人の方にご参加いただき、当振興局副局長から北方領土問題についての基礎知識、戦後の取り組みや最近の日口情勢について説明を行い、その後、北方領土の語り部であり、歯舞群島多楽島出身の河田弘登志氏から当時の島の生活やソ連軍占領時の体験などについてお話いただきました。参加された方々からは、当時の実体験が聞けたことがとてもよかった。大変有意義で勉強になったとの感想をいただいております。



東田副局長による北方領土問題に関する説明



「北方領土の語り部」河田弘登志氏(多楽島出身)

未就学児童を対象とした「北方領土出前教室」 ～千島桜咲かせ隊が行く！～

根室管内の未就学児童を対象に、北方領土を身近に感じてもらおうと、千島桜咲かせ隊(振興局職員)が北方領土イメージキャラクターエリカちゃんとともに、根室市立こまば保育所を訪れ、出前教室を実施しました。

北方領土に関する絵本「北方四島のいきものたち」の読み聞かせやエリカちゃんとの触れ合い、輪投げや塗り絵など楽しみながら北方領土を学ぶ機会を提供しました。



輪投げの様子



塗り絵の様子



エリカちゃんとの記念撮影

デジタルコンテンツ活用事業 千島桜満開プロジェクト

あなたの
四島への想い、
形にしてみませんか？

— 誰でも気軽に撮影できる写真要求運動の新たな形をご提案します。 —

北方領土モノがたり事業

千島桜満開プロジェクト

～ 手のひらに映く。四島への想い。～

このプロジェクトは、駐室管内で撮影された写真や北方領土問題に向けたメッセージを送っていただくことで Web 上の日本地図を北方領土返還要求運動のシンボル「千島桜」でいっぱいにして返還要求運動の核押しをしようとするものです。

HPへのアクセスはこちら
<https://hokkaido-chishimazakura.jp/>

駐室管内で撮影した写真と共に北方領土問題への想いをお寄せください。
駐室管内 北方領土問題

北方領土問題を「知る」きっかけ作りとして、特設ホームページから根室管内で撮影した写真や北方領土問題に対するメッセージを投稿する形で気軽に返還要求運動に参加できる「千島桜満開プロジェクト」に取り組んでいます。平成30年11月からホームページを開設し、これまで数多くの写真やメッセージが投稿されています。



<https://hokkaido-chishimazakura.jp/>

【投稿紹介】



四島の架け橋と祈りの火です。早期返還を切に願っています。

秋田県 ウェナ



展望台から見る国後島は大きかったな～領土問題が早く解決することを祈りました！

兵庫県 COBEXCO



標津町北方領土館の前で元気よく育っているマチ自慢の千島桜です！

北海道標津町 標津支部長からの投稿

根室管内での北方領土返還要求運動



北方領土返還要求運動強調月間街頭啓発(8月)

北方領土対策根室地域本部では、毎年8月の強調月間に札幌市で行われる「北方領土返還要求北海道・東北国民大会」に合わせて署名活動を実施しています。今年度は、あいにくの雨となり、屋内での実施となってしまいましたが、北方領土イメージキャラクターの「エリカちゃん」の登場もあり、147筆もの署名をいただくことができました。



第50次北方領土返還要求現地視察大会(4月)

日本青年会議所主催で行われるこの大会は、今回で50回の節目を迎え、基調講演や大会式典など2日間に渡り開催されました。当日は全国各地から青年会議所の関係者ら約300人が集まりました。



北方領土返還要求根室市民大会(8月)

根室市で毎年開催され、今年度は8月4日に実施されました。大会では「島を返せ」などのシュプレヒコールや、忍者ショーなどの子供向けアトラクションも実施され、北方領土問題への関心を深めることができました。



北方領土返還要求中標津住民大会(8月)

毎年「なかしべつ夏祭り」に合わせて開催されているこの大会では、参加住民全員が四島の方向に向かって行うシュプレヒコールのほか、署名活動も行われ、参加者は四島返還への想いを再確認しました。



2019平和ノサップ集会(9月)

日本労働組合総連合会の主催で行われるこの大会には、全国から約千人もの労働組合員が集まり、北方領土問題の早期解決を訴えました。また、釧路を拠点に活動する男性ボーカルデュオ「ヒートボイス」による演奏もありました。

根室管内での北方領土返還要求運動



「見て知る北方領土」展示会 (5, 8, 11月, 1-2月)

北方領土問題をより一層理解していただくため、返還要求運動、四島交流・北方墓参・自由訪問の様子や「北方領土の日」ポスターコンテストの受賞作品などを紹介しました。根室振興局1階道民ホール、道立北方四島交流センター(ニ・ホ・ロ)、道の駅「スワン44ねむろ」、大地みらい信用金庫本店で開催しました。



2020「北方領土の日」根室管内住民大会(2月)

毎年、「北方領土の日」の2月7日に根室管内の住民が一堂に会し、北方領土問題の解決と平和条約締結に向けて「原点の声」を全国に発信しています。また大会では、根室管内の中学生による弁論発表も行われました。



「北方領土の日」特別啓発期間街頭啓発(2月)

北方領土対策根室地域本部では、毎年根室市内で開催される「ニムオロ冬の祭典」に合わせ、会場で署名活動を実施しています。来場者の多くの方々にご協力をいただき、179筆もの署名が集まりました。

根室管内の北方領土学習の取組

根室市 / 別海町 / 中横津町 / 横津町 / 羅臼町



「根室管内の北方領土学習の取組」について情報発信

根室管内において、これまで行われてきた北方領土学習の取組について、その内容や学習資料等を北方領土対策根室地域本部ホームページにより情報発信しています。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/hrn/hoppogakusyu.htm>



「千島桜」を用いた啓発活動

北海道では、北海道遺産にも登録されている北方領土返還要求運動のシンボルマークの花「千島桜」をデザインしたピンバッジやシールなどを活用し、幅広く国民・道民の皆さんに北方領土問題への関心を持っていただけるように取組を行っています。

北方領土は日本固有の領土



1855年「日魯通好条約」

国境は、択捉島とウルップ島の間と定められた。樺太は混住の地とされた。



1875年「樺太千島交換条約」

日本が樺太を放棄する代償としてロシアから千島列島を譲り受けた。



1905年「ポーツマス条約」

日露戦争の結果、北緯50度以南の南樺太が日本の領土となった。



1951年「サンフランシスコ平和条約」

日本は、南樺太及び千島列島に対する権利を放棄した。(千島列島には北方領土は含まれていない)

【編集・発行】

北海道北方領土対策根室地域本部北方領土対策室
〒087-8588 根室市常盤町3丁目28番地
TEL:0153-24-5592 FAX:0153-23-5336

[ホームページアドレス]

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/hrn/>